

質疑応答要旨
(2006年3月期第1四半期決算説明会)

内容につきましては、理解し易いように部分的に加筆・修正してあります。

Q: 第1四半期は、赤字の3事業の損益の合計は27億円の損失と、前四半期比で5億円赤字が拡大していますが、それぞれの事業の状況と第2四半期以降の予測を教えてください。また、期初に見込んでいた状況と現状が合っているか教えてください。

A: 5億円の赤字拡大の主な原因は、キーボード事業にあります。MMMCはほぼ横ばいです。スピンドルモーター事業も売上がやや減少したため、若干損失が拡大しました。

キーボードは、第1四半期は売上は多かったのですが、上海での生産数量は低水準でした。しかし、この第2四半期から一段と生産が上がっていきますので、第2四半期は第1四半期と比較して損益が大きく改善できると考えています。

MMMCについては、9月末まで構造改革を実施するため、大きな改善に至るとは考えていません。

スピンドルモーターについては、ROFの販売がまだ開始されていないため、大きな改善は来期以降となり、この第2四半期はほぼ横ばいで推移すると考えています。

ただし、現在様々な対策を打っていますので、現時点の数量の中でも相当のコストダウンによる改善が図れると考えています。

Q: スピンドルモーター、ピボットアッセンブリー、キーボード、ファンモーター、ボールベアリングの第1四半期の数量の実績と、第2四半期の数量の見込みを教えてください。

A: ボールベアリングは6月に生産・販売数量は共に1億8,000万個を超え、第1四半期の平均生産数量は月1億8,000万個でありました。第2四半期は夏休み等の影響もあり、月1億7,500万個程度で推移すると考えています。

ピボットアッセンブリーは、第1四半期の生産・販売数量は、平均で月2,000万個強でした。第2四半期は更に10%前後の増加を見込みます。

キーボードの販売数量は、第1四半期が月220-230万台でしたが、第2四半期は月230-240万台で推移すると考えています。

スピンドルモーターの販売数量は、第1四半期は月440万個でした。第2四半期は現在の受注状況から推測して、月400-420万個を見込みます。

ファンモーターは販売が好調で、第1四半期の販売数量は月約850万個でした。第2四半期は更に増加すると考えています。

Q: 機械加工品事業の収益がここ数四半期の間、足踏み状態のように思います。民間航空機向けのベアリングとピボットアッセンブリーが好調の一方、ボールベアリングの収益が上がっていないように思いますが、機械加工品事業の収益性が伸び悩んでいる理由はどのようなところにありますか。

A: 機械加工品の営業利益は、前期の第4四半期は51億円、この第1四半期は51億円でしたが、ボールベアリングの営業利益は増加しました。生産数量が増加したことによって原価が下がっていますが、未実現利益によって一部相殺されています。

ロッドエンドは航空機関連が好調なため、販売数量、利益共に大幅に増加しています。反対に、この第1四半期に前四半期と比較して下がったのは、前四半期に伸びた利益率の高い航空機向けのねじで、売上が季節的要因により減少しました。特殊機器についても、年度末に向けて増えた受注が、第1四半期に季節的要因により減少しました。

また、ピボットアッセンブリーの3.5インチ、2.5インチ用は好調に推移しましたが、1.8インチ以下のマイクロHDD用ピボットアッセンブリーの歩留まりが改善していなかったため、想定していた程利益は伸びませんでした。この歩留まりの改善が第2四半期の課題です。

Q: ベアリングの利益が改善したということでしたが、売上も増加しているので、利益率の方向性について教えてください。また、機械加工品セグメント全体の営業利益率が、前四半期比でも前年同期比でも下がっている点について説明下さい。

A: 前年の第 1 四半期と比較して平均単価がやや下がっています。製造原価の下落を売値の平均単価の下落の幅が上回ったため、利益では前年同期比で若干下がりました。しかし、前年の第 4 四半期を底として、上期は製造原価の低減に伴い、利益は回復すると考えています。
また、航空機用の大型のロッドエンドベアリングについても、売上、利益面で順調に拡大方向にあると考えています。

Q: 価格はどのように推移しましたか。

A: 方向性としては、マーケットは安定しているので、今後もプロダクトミックスを管理していけば、大きな平均単価の下落は起こらないと考えています。生産数量が月 1 億 8,000 万個に達したので、これをベースとして製造原価の低減を図ります。

Q: 外販のボールベアリングの単価は前四半期比で下落していますか。

A: 平均単価は、ほぼ横ばいです。ボールベアリングの売上高は、販売数量の増加により前四半期比で約 4%増加しました。月 1 億 8,000 万個の生産が安定してくると製造原価の低減と相まって、利益は良くなると思います。

Q: 生産能力の増強に伴い、自動組み立て等も行っていると思いますが、歩留まりの良くない小さいサイズのピボットアッセンブリーの歩留まりや生産性は上がりますか。

A: 自動化を進めています。手作業で行うよりも正確なため、歩留まりも生産性も上がり、コストを削減できます。

Q: 自動組み立て機械を導入する際は、軽井沢でパイロットラインを製作して品質を確認した上で、タイにおいて量産対応という形をとっていたと思いますが、今回のピボットアッセンブリーの自動組み立てについても同様のプロセスでしょうか。

A: 同じプロセスです。

Q: ライティングデバイスのバックライトの生産数量を教えてください。また秋以降に拡大を見込んでいるという話でしたが、第 3 四半期以降の予想数値を教えてください。

A: 第 1 四半期の平均生産数量は、月 450 万台でした。第 2 四半期では、月 600 万台程に増加すると想定しています。まだ不確定要素はありますが、下期以降は月 700-800 万台の生産を現時点で見込んでいます。

以上